

2023年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

以下の（設例）を読んで、問（1）から（4）に答えなさい。

（設例）

1. Aは、音楽大学のピアノ科の教授であったが、2022年3月末に同大学を退職した。Aは、この機会に、京都にある住居を引き払い、かつて実家のあった横浜市内に所有する甲土地に建物を自宅兼音楽教室として建築し、その建物に居住しながら生徒にピアノ等の楽器を教えようと考えた。
2. Aは、2022年4月11日、建築業者Bとの間で、Bが報酬8000万円で3階建て鉄筋コンクリート造りの建物を甲土地上に建築する旨の請負契約（以下「契約①」という。）を締結した。契約①では、「Aは、Bに対し、建物完成後引渡し時に報酬8000万円を支払う。資材は、BまたはBの下請負人が提供する。工期は、2022年5月1日から同年10月31日までとする。」旨が定められた。工期がこのように定められたのは、Aが、「建築した建物で2022年12月1日から音楽教室を開く予定であり、大学の卒業生にも声をかけてもらったので、30名の生徒が集まることを見込まれる。工事期間中、宣伝その他の準備のために甲土地の付近にマンションを借りる予定である。竣工後の音楽教室開設準備作業等をも考慮すると、10月中には完成してほしい。」とBに要望したからである。Aは、甲土地の近くにある賃貸マンション乙に転居することにし、同年5月1日から乙を相場通りの賃料月額10万円、契約期間1年間で賃借した。この賃貸借契約では、事前に所定の手続で解約申入れをすれば、契約期間の途中でも解約可能であると約定された。
3. Bは、2022年4月18日、建築業者Cとの間で、契約①にかかる工事のうち、基礎工事と躯体（鉄骨、柱等の建物の構造部分）工事につき、Cに施工させる旨の下請負契約（以下「契約②」という。）を締結した。契約②では、「Bは、Cに対し、基礎工事及び躯体工事終了後、出来形部分（基礎工事部分と躯体工事部分の全体）引渡し時に報酬3000万円を支払う。基礎工事部分と躯体工事部分の資材は、Cが提供する。工期は、2022年5月1日から同年7月31日とする。」旨が定められた。
4. Bは、その後、資金繰りに窮して事実上の倒産状態となった。Bは、Cが基礎工事と躯体工事を終了し、Bに出来形部分を引き渡した2022年7月頃、Cに報酬を支払わずに行方をくらました。
5. Aは、別の建築業者を探したが、建築業界はどこも人手不足で、すぐに作業に着手できる業者がなかなか見つからなかった。2022年9月9日、Aは、ようやく、

2023年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

建築業者Dとの間で、事実4の出来形部分をもとに建築を続行して建物を完成する工事の請負契約（以下「契約③」という。）を締結することができた。契約③では、「Aは、Dに対し、建物完成後引渡し時に報酬5000万円を支払う。資材は、Dが提供する。完成建物の所有権はAに帰属する。」旨が定められた。工期については明確に定められなかったが、Aは、事情を話し、年内の完成及び引渡しを要望した。

6. 2022年12月20日、Dは、建物を完成し（以下、この建物を「丙建物」という。）、Aにこれを引き渡した。Aは、報酬5000万円をDに支払った。Aは、同月限りで乙の賃貸借契約を解約し、同月31日をもって乙を退去した。
7. Aは、1か月間の開設準備作業を経て、2023年2月1日、当初の予定から2か月遅れで生徒30名を相手に丙建物で音楽教室を開いた。レッスン料は相場通りの1人月額1万円とされた。
8. 2023年3月1日、Cは、Aに対し、3000万円の支払を請求した。

問（1）（配点：20点）

（設例）中の事実6の丙建物の完成時に、丙建物の所有権は誰に帰属するかを検討しなさい。

問（2）（配点：30点）

（設例）中の事実1から7までを前提として、BはAに対していかなる債権を有するか、また、AはBに対していかなる債権を有するかを述べなさい。

問（3）（配点：30点）

（設例）中の事実8のCの請求の根拠について説明しなさい。請求の根拠が複数考えられる場合、それらをすべて挙げること。

問（4）（配点：20点）

（設例）中の事実8のCの請求の当否を検討しなさい。